

「瀧之拝太郎」の着ぐるみが完成しました

商標登録が完了した「瀧之拝太郎」キャラクターの着ぐるみが完成いたしました。

「瀧之拝太郎」は古座川の民話に出てくる主人公で、現在、町の観光PRキャラクターとなっています。

着ぐるみの完成にあたり、11月2日(金)に瀧之拝太郎が滝壺から持ち帰ってきた「丸い石」が祀っている金比羅神社でご挨拶(参拝)しました。



11月5日(月)高池保育所で園児の皆さんの前でお披露目会を行いました。



今後いろいろなイベントや行事に参加し、多くの人々に古座川町をPRしたいと考えております。

民話「瀧之拝太郎」は下記をご覧ください。

瀧之拝太郎

昔、瀧の拝に瀧之拝太郎という侍が住んでいて、瀧の周辺に穴壺を掘って人々の目を楽しめようと毎日刀で穴を掘り続けていました。

九百九十九壺の穴を掘って千にあと一つという日に、刀を瀧壺に落としてしまいました。侍は刀を拾いに瀧壺にもぐったまま帰らないので、家人や近所の人々は瀧の主にも食われたのだらうと七日の法事をしているところ太郎がひょっこり瀧壺から上がって来たのでみんなびっくりしました。

その時の太郎の話によると、瀧壺の底には大変立派な宮殿があって、瀧の主といわれるきれいなお姫様が大量の侍女にかしづかれていて、太郎を大歓迎してくれました。

夢中に遊んでいるうちにふと家へ帰りたくなったので、落とした刀に副えて丸い大きな石をみやげにもらってきました。それまで瀧

壺で雷のようにごろごろと鳴っていた音が、
ハタと止みました。その石は今、滝の主を祭
っている金比羅さまの境内に置かれていま
す。